

至

大連市紀伊町八十五番地

(滿鐵本社前電車通)

滿洲建築協會々館

貸陳列窓

申込所

滿洲建築協會事務所

電話三四一九番

▲大サ

奧行三尺
間口六尺
高サ七尺

▲個數四

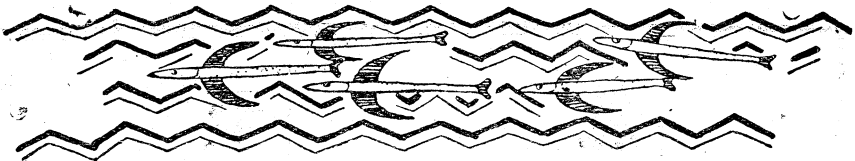
個

▲料金

一個一ヶ月
金十五圓
二分ノ一
一ヶ月
金八圓

▲陳列品

建築材料
又ハ製作品



滿洲建築協會雜誌

第四卷
第五號

目次

□ 繪

◆新築大連埠頭待合所外觀……………

◆同 所 玄關……………

◆同 所 オーバーブリツヂ及廣間……………

◆同 所 廣 間……………

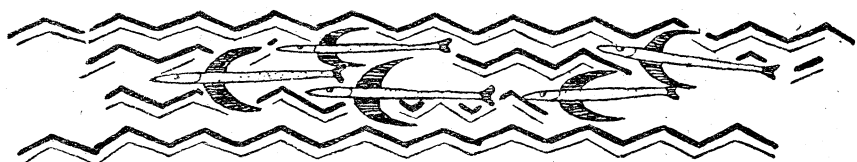
◆同 所 階 段(廣間より屋上へ)……………

□ 卷頭

□海近き村

□ 論 說

□滿洲建築界の革新……………松室重光……………二



學苑

- 南滿洲の地質と石材……………満鐵地質調査所……………七
- 住宅の間取及設備の改善……………生活改善同盟會……………一五
- アルミニウムペイントに就いて……………田阪吉次郎……………二五
- 大連第二埠頭船客待合所設計概要……………三〇

漫錄

- 研究と宣傳……………X 生……………三一
- 上古に於ける幾何學の問題……………K N 生……………三五

紀行

- 佛蘭西より伊太利へ……………岡 大路……………三八

時報

■大連郊外瓦斯工事■第四埠頭築造工事■相互保證金融組合■奉天ヤマトホテル懸賞指名
 競技■内外ビル請負人を訴ふ■高層建築不振

會報

■理事會■委員詮衡委員會■研究調査委員總會

大連市建築材料時價表——大正十三年五月中旬調

編輯後記

□潤ひの乏しいと言はるゝ滿洲に在つては、格別の懐かしさを以て迎へられた初夏の頃太平洋畫會の展覽會が催されて、滿洲に居ては餘り見られぬ諸大家の作品に接する事の出來たのは、なりわいの疲れから慰められやうとする人々にとつては旱地に慈雨に甦る喜悅であつた。

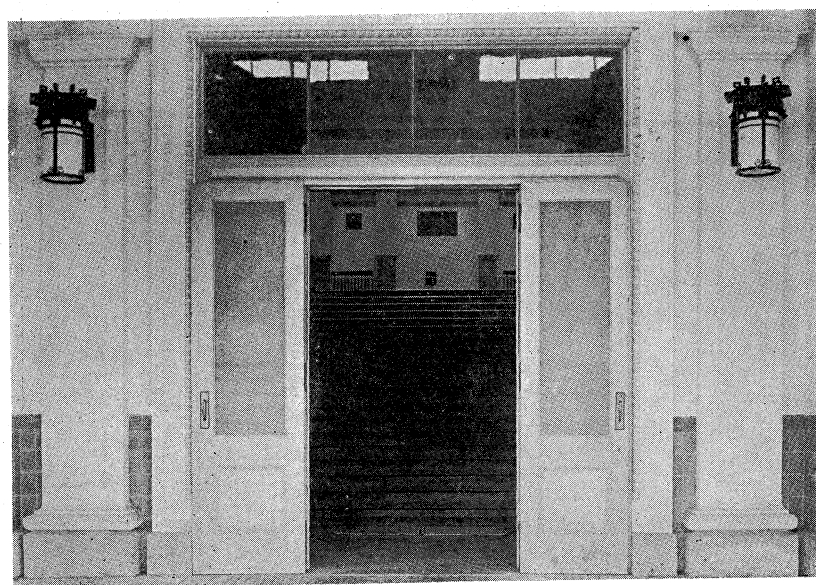
□繪畫と彫刻と音樂と劇と是等のものが決して建築と没交渉に行立たぬものである如く、建築も亦是等のものを離れては有り得ないものである。協會の事業としてみても斯うした方面に何等かの試みが望ましい様に思ふ。

□建築規則の研究に關する委員會の外從來久しく息むでゐた各委員會が此の月より委員の顔觸を改めて新しい意氣込みで夫々協定せられたる題目に就いて研究を進むる事になつた。是等委員會の活動の結果はやがて本誌の編輯資料ともなる事であらう。

□毎度配本が期日に遅れる事は痛心の至りであるが誠によんどころなき次第である只管各位の寛恕を請ふ。



新築大連埠頭大待合所外觀



同所支關